



Title	現代モンゴル語の副動詞を反復する従属節における主語と目的語の単複
Author(s)	ナムダグ, ハグバジャブ; Namdag, Lkhagvajav
Citation	北方言語研究, 12, 263-276
Issue Date	2022-03-20
DOI	https://doi.org/10.14943/101905
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84875
Type	departmental bulletin paper
File Information	16_Namdag.pdf



[資料・研究ノート]

現代モンゴル語の副動詞を反復する従属節における主語と目的語の単複

ナムダグ ハグバジャブ
(東京外国語大学大学院博士後期課程)

キーワード：モンゴル語、副動詞、反復、主語、目的語

0. はじめに

モンゴル語の副動詞接尾辞は主節の述語を修飾する連用節の述語の形を作る。モンゴル語では一部の副動詞が反復して用いられることがある。本稿では、現代モンゴル語ハルハ方言の従属節において、副動詞の反復が主語と目的語(間接目的語と直接目的語)の単複にどのように関わるかについて考察する。

論文構成は次の通りである。まず、第1節で先行研究の記述をまとめ、問題提起を行う。次に、第2節で調査方法と調査結果を述べ、最後に第3節でまとめを述べる。

本稿の例文番号とローマ字転写¹は特に断りのない限り筆者によるものとする。先行研究のグロス、日本語訳については特に断りのない限り先行研究に従うが、先行研究にグロス、日本語訳がない場合は筆者がこれを付けることとする。なお、各接尾辞には母音調和による異形態が存在するため、その代表形として大文字で以下のように -AA_d, -bAl, -sAA_r, -tAl, -mAgc, -xIAA_r, -ngUU_t, -ngAA, -xAAR, -mAAžin (-mAAž) と表記する。

1. 副動詞に関する先行研究

1.1 副動詞接尾辞

モンゴル語の副動詞について詳細に考察した先行研究はあまり多く見られない。Pürev-Očir (1987) は副動詞接尾辞に特化した研究である。その他に Mishig (1977)、栗林 (1989)、Kullmann and Tserenpil (2001)、山越 (2012) などはモンゴル語の全体的な文法記述であり、その中の一部として副動詞を扱っている。具体的に言えば、副動詞接尾辞として -n, -ž/č, -AA_d, -bAl, -sAA_r, -tAl, -mAgc, -xIAA_r, -ngUU_t, -ngAA, -vč の10個について共通して扱っている。それに加え、山越 (2012: 119) は -mAA_r, Kullmann and Tserenpil (2001: 166, 172) は -xAAR, -mAAžin (mAAž), Pürev-Očir (1987: 108-138) は -lgüj, -mAAžin (mAAž) を副動詞接尾辞として扱っている。

1.2 副動詞の反復に関する研究と問題点

副動詞の反復については Bjambaran (1970), Bjambaran (1978), Kullmann and Tserenpil (2001), Janhunen (2012) などの研究はあるが、副動詞の反復する従属節における主語と目的語の単複に関する研究は筆者の管見の限りでは見当たらない。

¹ 本稿の例文の表記は、モンゴル国のキリル文字による正書法に従い、以下のようにローマ字に転写した。
a = a, б = b, в = v, г = g, д = d, е = je, ё = jo, ж = ž, з = z, и = i, й = j, к = k, л = l, м = m, н = n, о = o, ө = ö, п = p, р = r, с = s, т = t, у = u, ү = ü, ф = f, х = x, ц = c, ч = č, ш = š, шц = šč, ь = ’, ы = y, ь = ’, э = e, ю = ju, я = ja

Bjambasan (1970) では、-AAd をもつ副動詞の反復について、2つの意味を表すと指摘している。具体的に言えば、①動作の絶え間ない継続 “bodood bodood olddoggüj” 「考えても考えても思いつかない」、②個々の動作の継続 “xon’, xurga, üxer, tugalaa xöögöod xöögöod irlee.” 「羊、子羊、牛、子牛を (別個に) 追って追って来た」の意味を表すという。また、Bjambasan (1978) では、Šjevjernina (1974)² を引用し、-žč, -n, -sAAr, -AAd の4種類による反復が可能であり、副動詞の反復は一種のアスペク的な機能を果たすと述べている。Bjambasan (1978) はまた “cočtol cočtol xašgirax” 「びっくりするまで叫ぶ」 (-tAl は限界副動詞接尾辞) のような副動詞の反復は可能と指摘している³。

Kullmann and Tserenpil (2001) は、-žč と -AAd をもつ副動詞の反復は行為の継続を表すが、前者は少しがっかりしたようなニュアンスで (例 1)、後者-AAd は満足のいく結果が得られないこと (例 2) を表し、常に否定文で用いられるとしている。一方、-sAAr (例 3) をもつ副動詞の反復は行為の強化を表すとしている。

- (1) Ter ene tuxaj **jar’-ž** **jar’-ž** jav-san.
 彼 この について 話す-CVB.IPFV 話す-CVB.IPFV 行く-VN.PFV
 「彼はこれについてずっと話してから去った」

(Kullmann and Tserenpil 2001: 158)

- (2) Dorž ene ögүүлber-ijg **unš-aad** **unš-aad** ojlgoson-güj.
 PSN この 文-ACC 読む-CVB.PFV 読む-CVB.PFV 理解する-VN.PFV-NEG
 「ドルジはこの文を繰り返して読んでも理解できなかった」

(Kullmann and Tserenpil 2001: 160)

- (3) Bid=nar ene sajxan ajrg-ijg **uu-saar** **uu-saar** barag
 1PL=PL この 良い 馬乳酒-ACC 飲む-CVB.DUR 飲む-CVB.DUR ほぼ
 duus-ga-čix-laa.
 終わる-CAUS-PFV-PST

「私たちはこのおいしい馬乳酒を飲み続けてほぼ飲み干すところだ」

(Kullmann and Tserenpil 2001: 169)

しかし、実際には -AAd をもつ副動詞の反復は常に否定文で使用されるとは限らず、肯定文でも使用されることがある⁴。

Janhunen (2012) は、-n をもつ副動詞の反復は、反復の行為あるいは複数の行為を表す意味で使用されるとしている。

² Šjevjernina (1974) について筆者は未見である。

³ Bjambasan (1978) は限界副動詞接尾辞 -tAl をもつ副動詞の反復が可能と指摘しているが、-tAl をもつ副動詞の反復は副詞的に働いているため、副動詞の反復として扱うのには疑問が残る。

⁴ 後述の (例 24b, c, d) を参照されたい。

- (4) *gui-n* ‘to run’ + *ir-* ‘to come’ = *gui-n ir-* ‘to come running’
(5) *gui-n gui-n ir-* ‘to come running (many persons, all the time)’

(Janhunen 2012: 165)

例 (5) では主語は *many persons* と複数であるとされているが、実際には必ずしも複数とは限らず、単数の場合もありうる。

以上で述べたことから分かるように、先行研究ではモンゴル語の副動詞の反復について簡単に取り上げるのみで、深く掘り下げていない。例えば、副動詞が反復される場合、従属節の主語と目的語の単複の関係がどのようなものであるかに着目した研究はまだ見当たらない。このような状況を踏まえ、副動詞が反復する従属節における主語と目的語の単複の関係がどのようなになるかを明らかにする必要があると考える。

2. 調査

本稿では、「主語-ゼロ」、「間接目的語-与格」、「直接目的語-ゼロ (-対格、-再帰)」という3つのパターンを対象とする。なお、主語と目的語の単複は形態論的基準で判断する。

2.1 調査方法

本稿ではコーパス調査とインフォーマント調査を行い、副動詞の反復する従属節に見られる主語と目的語の単複の関係を明らかにする⁵。

コーパス調査では、Corpus Technologies が2007年から2009年にかけて開発した、ウェブ上で検索可能な Mongolian National Corpus⁶ (総語数 1,160,000 語) を利用する。コーパス検索の際には、それぞれの副動詞接尾辞の前に “*” をつけて、例文を抽出する。コーパス自体には名詞、動詞などを区別する機能がないため、検索の結果出てきてしまう名詞の反復であるかどうかを確認し、これを目視によってリストから除外する。会話などの話し言葉では、副動詞の反復は頻繁に起こる。ただし、本コーパスには文学作品などの文語的な例文がかなりあったため、補足としてグーグルで検索し、口語的なデータも利用する。筆者はモンゴル語ハルハ方言母語話者であるため、以下では自身の内省により例文の文法的な容認度などを判断することがある。インフォーマント調査では、筆者が作成した例文をインフォーマント⁷に提示し、「自然」「違和感がある (?)」「非文 (*)」のいずれかを尋ねる形で容認度を確認する。例文を作成する際には、直接目的語と間接目的語の単複も確認するために2項動詞と3項動詞に分けることにする。

- 2項動詞: a. 主語 (単数)+目的語 (単数)、b. 主語 (単数)+目的語 (複数)、
c. 主語 (複数)+目的語 (単数)、d. 主語 (複数)+目的語 (複数)

⁵ 本稿では、副動詞反復の意味用法 (「継続」、「繰り返し」といった動詞分類) について今後の課題にする。

⁶ 本コーパスは規模やその収録内容などについては不明な点が多いが、現時点でモンゴル語に関する完成したコーパスはないため、利用することにした。

⁷ 1999年生まれでモンゴル国ウランバートル市出身モンゴル語ハルハ方言母語話者の女性 N.T 氏である。

- 3 項動詞: a. 主語 (単数)+間接目的語 (単数)、b. 主語 (単数)+間接目的語 (複数)、
c. 主語 (複数)+間接目的語 (単数)、d. 主語 (複数)+間接目的語 (複数)

3 項動詞の場合は、目的語が「直接目的語」と「間接目的語」に分けられるが、直接目的語の単複が問題にならない。言い換えれば、直接目的語が単数でも複数でも可能である。従って、本稿で扱う 3 項動詞は間接目的語の単複を考察の対象とする。紙幅の都合により a~d 該当するすべての作例を挙げていない場合もある。

2.2 調査結果

コーパスで検索したところ、-ž/č をもつ副動詞の反復 43 例、-n をもつ副動詞の反復 14 例、-AAAd をもつ副動詞の反復 20 例、-sAAr をもつ副動詞の反復 4 例が得られた。その他⁸の副動詞の反復の例は見られなかった。以下、2.2.1 節で -ž/č の反復、2.2.2 節で -n の反復、2.2.3 節で -AAAd の反復、2.2.4 節で -sAAr の反復についてそれぞれ述べる。

なお、以下、Mongolian National Corpus ならびに Google からの例にはそれぞれ出典を示す。特に出典が明記されていないものは、筆者の作例による。

2.2.1 -ž/č の反復

コーパスで得られた 24 例は動詞の本来の意味で使用されているが、ある種の決まり文句として使用されている例も 19 例あった。具体的には、očiž očiž, javž javž⁹, tegež tegež, ingež ingež は「結局のところ、一体、結果として」といった意味を表すが、互いにニュアンスの違いがある。以下の例を参照されたい。

- (6) **Jav-ž** **jav-ž** muu xüü-gijn-x-ee bujan-aar bid=čin'
行く-CVB.IPFV 行く-CVB.IPFV 悪い 息子-GEN-POSS-REF 恩-INS 1PL=2.POSS
or-ox oron-toj bol-ov=šüü.
入る-VN.NPST 住居-PROP なる-PST=MDL
「結局のところ (lit. 行って行って) こんな息子のおかげで私たちは住居を手に入れた」
(Mongolian National Corpus)

- (7) **Oč-iž** **oč-iž** aav-yg-aa buruu tani-x
行く-CVB.IPFV 行く-CVB.IPFV お父さん-ACC-REF 誤り 知る-VN.NPST
ge-ž juu ge-sen üg ve.
という-CVB.IPFV 何 という-VN.PFV 言葉 Q
「お父さんを間違えるなんて一体どういうことだ」
(Mongolian National Corpus)

⁸ 先行研究では副動詞接尾辞 -ž/č, -n, -sAAr, -AAAd 以外に -tAl をもつ副動詞も反復することが可能である述べていたが、-tAl をもつ副動詞の反復が従属節にならないため本研究の対象外とする。

⁹ javž javž は動詞の本来の意味での使用も可能である。

得られた 24 例に関して言えば、主語と目的語の複数形の例がなかったため、筆者が作例し、インフォーマントに容認度を確認した。

2 項動詞の場合:

例 (8, 9) a, b, c, d のように主語と直接目的語は単数でも複数でも自然である。

- (8) a. Eež nom-oo unš-iž unš-iž unt-san.
お母さん 本-REF 読む-CVB.IPFV 読む-CVB.IPFV 寝る-VN.PFV
「お母さんは本をずっと読んでから寝た」
- b. Eež nom-nuud-aa unš-iž unš-iž unt-san.
お母さん 本-PL-REF 読む-CVB.IPFV 読む-CVB.IPFV 寝る-VN.PFV
「お母さんは本 (複数) をずっと読んでから寝た」
- c. Eež-üüd nom-oo unš-iž unš-iž unt-san.
お母さん-PL 本-REF 読む-CVB.IPFV 読む-CVB.IPFV 寝る-VN.PFV
「お母さんたちは本をずっと読んでから寝た」
- d. Eež-üüd nom-nuud-aa unš-iž unš-iž unt-san.
お母さん-PL 本-PL-REF 読む-CVB.IPFV 読む-CVB.IPFV 寝る-VN.PFV
「お母さんたちは本 (複数) をずっと読んでから寝た」
- (9) a. Bi širee arč-iž arč-iž gar-č jav-san.
1SG テーブル 拭く-CVB.IPFV 拭く-CVB.IPFV 出る-CVB.IPFV 行く-VN.PFV
「私はテーブルを拭いて拭いて出て行った」
- b. Bi širee-nüüd-ee arč-iž arč-iž gar-č jav-san.
1SG テーブル-PL-REF 拭く-CVB.IPFV 拭く-CVB.IPFV 出る-CVB.IPFV 行く-VN.PFV
「私はテーブル (複数) を拭いて拭いて出て行った」
- c. Bid=nar širee arč-iž arč-iž gar-č jav-san.
1PL=PL テーブル 拭く-CVB.IPFV 拭く-CVB.IPFV 出る-CVB.IPFV 行く-VN.PFV
「私たちはテーブルを拭いて拭いて出て行った」
- d. Bid=nar širee-nüüd-ee arč-iž arč-iž gar-č jav-san.
1PL=PL テーブル-PL-REF 拭く-CVB.IPFV 拭く-CVB.IPFV 出る-CVB.IPFV 行く-VN.PFV
「私たちはテーブル (複数) を拭いて拭いて出て行った」

3 項動詞の場合:

3 項動詞の場合、主語と間接目的語が単数でも複数でも自然であると判断された。

- (10) a. Bagš ojutan-d xičeel **zaa-ž** **zaa-ž** jav-laa.
先生 学生-DAT 授業 教える-CVB.IPFV 教える-CVB.IPFV 行く -PST
「先生は学生に授業を教えてから行った」
- b. Bagš ojutn-uud-ad xičeel **zaa-ž** **zaa-ž** jav-laa.
先生 学生-PL-DAT 授業 教える-CVB.IPFV 教える-CVB.IPFV 行く -PST
「先生は学生たちに授業を教えてから行った」
- c. Bagš=nar ojutan-d xičeel **zaa-ž** **zaa-ž** jav-laa.
先生=PL 学生-DAT 授業 教える-CVB.IPFV 教える-CVB.IPFV 行く -PST
「先生たちは学生に授業を教えてから行った」
- d. Bagš=nar ojutn-uud-ad xičeel **zaa-ž** **zaa-ž** jav-laa.
先生=PL 学生-PL-DAT 授業 教える-CVB.IPFV 教える-CVB.IPFV 行く -PST
「先生たちは学生たちに授業を教えてから行った」

上述の通り、直接目的語の単複に関係なく例文の容認度を確認できているため、直接目的語を単数形で表した (例 10 の xičeel 「授業」単数)。モンゴル語では 3 項動詞に限られているため、例 (11) のように、2 項動詞に使役接辞が付加された動詞が 3 項動詞として機能する用例を検討した。

- (11) Bi xüüxed-d-ee dulaan xuvcas **öms-gö-ž** **öms-gö-ž**
1SG 子供-DAT-REF 暖かい 服 着る-CAUS-CVB.IPFV 着る-CAUS-CVB.IPFV
gadaa gar-ga-san.
外 出る-CAUS-VN.PFV
「私は (自分の) 子供に温かい服を着せて着せて外へ行かせた」

例 (11) のように、-žč をもつ副動詞の場合、主語と間接目的語は単数でも複数でも自然である。

2.2.2 -n の反復

-n をもつ副動詞の反復の例はコーパスで 14 例を得られた。

- (12) Tevx šar, Xavx xar xojor duran-gaa **arč-in** **arč-in** durand-av.
PSN PSN 2人 双眼鏡-REF 拭く-CVB.MOD 拭く-CVB.MOD 覗く -PST
「テヴフシャルとハヴフハルの二人は双眼鏡を何度も拭きながら双眼鏡を覗いた」

(Mongolian National Corpus)

- (13) ...dagžin čičir-č xono-sn-oo tasralt-güj sana-n
 ガタガタ 震える-CVB.IPFV 泊まる-VN.PFV-REF 途切れ-NEG 思う-CVB.MOD
sana-n xörzön xovxol-ž, önööx čuluun xoroo-goo
 思う-CVB.MOD 家畜の糞 剥がす-CVB.IPFV その 石 柵-REF
 dotorlo-v.
 厚くする-PST
 「...ガタガタ震えながら夜を明かしたことをずっと思い、重ねた家畜の糞を剥がして、石の柵を厚くした」

(Mongolian National Corpus)

上記の例 (12) は arč-「拭く」という行為を繰り返して行うことを表しているが、例 (13) は反復されている副動詞の前に tasralt-güj「絶え間なく、途切れなく」のような副詞的な要素がある影響で、「継続」の意味を表している。言い換えれば、tasralt-güj「絶え間なく、途切れなく」のような副詞的要素なければ「継続」ではなく「繰り返し」の意味になる。

2 項動詞の場合:

2 項動詞の場合、主語と直接目的語が単数でも複数でも自然であると判断された。以下の例 (14) を参照されたい。

- (14) a. Bagš ojuutn-aa **xar-an** **xar-an** ujl-av.
 先生 学生-REF 見る-CVB.MOD 見る-CVB.MOD 泣く-PST
 「先生は学生を何度も見ながら泣いた」
- b. Bagš ojuutn-uud-aa **xar-an** **xar-an** ujl-av.
 先生 学生-PL-REF 見る-CVB.MOD 見る-CVB.MOD 泣く-PST
 「先生は学生たちを何度も見ながら泣いた」
- c. Bagš=nar ojuutn-aa **xar-an** **xar-an** ujl-av.
 先生=PL 学生-REF 見る-CVB.MOD 見る-CVB.MOD 泣く-PST
 「先生たちは学生を何度も見ながら泣いた」
- d. Bagš=nar ojuutn-uud-aa **xar-an** **xar-an** ujl-av.
 先生=PL 学生-PL-REF 見る-CVB.MOD 見る-CVB.MOD 泣く-PST
 「先生たちは学生たちを何度も見ながら泣いた」

例 (14)b, d は直接目的語が複数形であるが、「毎回すべての学生を見た」と「毎回違う学生を見た」という2つの解釈が可能である。つまり、同じ対象物か別々の対象物かははっきり

りしない。

3 項動詞の場合:

3 項動詞の場合、主語と間接目的語の単複に関係なく、-n をもつ副動詞の反復は許されない (例 15, 16)。ただし、話し手から聞き手や第三者に対する指示、警告、禁止といった内容の話をする場合は可能である (例 17, 18)。その場合、その動作は「繰り返し」という意味ではなく、禁止、警告といった意味を表す。

(15) * Bagš ojutan-d nom **ög-ön** **ög-ön** jav-laa.
先生 学生-DAT 本 あげる-CVB.MOD あげる-CVB.MOD 行く-PST
「先生は学生に本をあげてあげて行った」

(16) * Eež=n' xüüxed-d-ee xool **id-üül-en**
お母さん=3.POSS 子供-DAT-REF 料理 食べる-CAUS-CVB.MOD
id-üül-en unt-uul-av.
食べる-CAUS-CVB.MOD 寝る-CAUS-PST
「お母さんが (自分の) 子供に料理を食べさせて食べさせて寝かせた」

(17) Či möngö-ö Bat-ad **zeel-en** **zeel-en** ter-end bitgij
2SG 金-REF PSN-DAT 借りる-CVB.MOD 借りる-CVB.MOD 3SG-DAT NEG
tusal.
助ける.IMP
「お前は自分のお金をバトに貸して助けることをするな」

(18) Či Bat-ad ödör бүр zaxia **ilgee-n** **ilgee-n** xariu xülee-x
2SG PSN-DAT 日 毎 手紙 送る-CVB.MOD 送る-CVB.MOD 返事 待つ-VN.NPST
xereg bai-na=uu?
必要 ある-PRS=Q
「お前はバトに毎日手紙を送って返事を待つ必要があるか」

2.2.3 -AAd の反復

コーパスでは -AAd をもつ副動詞の反復する例が 20 例得られた。

(19) Büsgüj-n ner-ijg=l **bod-ood** **bod-ood** ol-son-güj.
女性-GEN 名前-ACC=EMPH 考える-CVB.PFV 考える-CVB.PFV 見つける-VN.PFV-NEG
「その女性の名前だけは長いこと考えたけれども、(結局は) 思い出せなかった」
(Mongolian National Corpus)

- (20) Gongor=šig **xüs-eed** **xüs-eed** divaažin-d daxi-n
 PSN=のように 望む-CVB.PFV 望む-CVB.PFV 天国-DAT 繰り返す-CVB.MOD
 tör-öx=biš jamar.
 生む-VN.NPST=NEG どんな
 「ゴンゴルのようにずっと希望しても天国で生き返ることはない」
 (Mongolian National Corpus)

コーパス調査では -AAd の反復の肯定文が得られなかったので、補足としてグーグルで検索を行った結果、以下の用例を収集することができた。検索窓に筆者の考えた副動詞接尾辞をもつ副動詞を入力し検索した。以下の例文 (21)～(23) は個人的なブログの自分の感想を書いた記事やフェイスブックのコメントであった。(22) と (23) の例文に見るように **ög-öö=l** (ög-あげる、くれる) といった形式になることが多いのが特徴である。しかし、コーパスからこの形式は得られなかった。ög-(あげる、くれる) という動詞に副動詞接尾辞の -AAd と強調を表す小詞=l が付いている形式であると考えられる。口語で頻繁に使用される表現であり、話者によって -AAd=l の d が発音されない傾向があり -AAI という形式になると考えられる。

- (21) Erg-üül-ex maš ix üx-mel xöröngö baj-na.
 回転する-CAUS-VN.NPST とても たくさん 死ぬ-NMLZR 財産 ある-PRS
Duud-aad **duud-aad** zar-čix-aač.
 呼ぶ-CVB.PFV 呼ぶ-CVB.PFV 売る-PFV-IMP
 「有効活用できていない運用資産が沢山ある。(人)を呼んで呼んで売ってしまったら」
 (Google)

- (22) Jamar=č amr-ax cag gar-ga-x-güj zügeer=l daalgavar
 どんな=EMPH 休む-VN.NPST 時間 出る-CAUS-VN.NPST-NEG ただ=EMPH 宿題
ög-öö=l **ög-öö=l** baj-na=uu ge-x-ees
 くれる-CVB.PFV=EMPH くれる-CVB.PFV=EMPH ある-PRS=Q という-VN.NPST-ABL
 tajlbar xarilc-an jaria ene ter baj-x-güj.
 説明 交流する-CVB.MOD 話 この その ある-VN.NPST-NEG
 「なんの休む時間も与えないで、ただ宿題を出すばかりで、説明や話などが無い」
 (Google)

- (23) Tijm=l ögöömör baj-san=ym=bol **ög-öö=l**
 そんな=EMPH 気前が良い ある-VN.PFV=MDL=TOP あげる-CVB.PFV=EMPH
ög-öö=l jav-čix xereg-tej=šd tee.
 あげる-CVB.PFV=EMPH 行く-PFV 必要-PROP=MDL Q
 「そんなに気前が良いなら (皆に) あげてあげて行くべきでしょうね」
 (Google)

以上の例文を見ると、**ög-öö=l ög-öö=l (ög-あげる、くれる)** の3項動詞の直接目的語と間接目的語が両方とも省略されている。そのため、その動作を繰り返しているということは明確であるが、間接目的語が単数であるか複数であるかは曖昧である。そのため、以上の用例を基にし、筆者が以下の用例を作例し、その文の容認度を判断した。

2 項動詞の場合:

以下の例文を見ると、(24) a は違和感があるが、(24) b, c, d は自然である。つまり、(24) b, c の **av-aad av-aad** という副動詞の反復は「繰り返し」を表しているため、主語と目的語のどちらかが複数形になることが必須である。他の動詞、例えば「食べる」「洗う」「読む」などでも同様に主語と直接目的語のどちらかが複数形である。

(24) a. ? Ojuutan nom-oo **av-aad** **av-aad** jav-laa.
 学生 本-REF 取る-CVB.PFV 取る-CVB.PFV 行く-PST
 「学生は自分の本を取って取って行った」

b. Ojuutan nom-nuud-aa **av-aad** **av-aad** jav-laa.
 学生 本-PL-REF 取る-CVB.PFV 取る-CVB.PFV 行く-PST
 「学生は自分の本 (複数) を取って取って行った」

c. Ojuutn-uud nom-oo **av-aad** **av-aad** jav-laa.
 学生-PL 本-REF 取る-CVB.PFV 取る-CVB.PFV 行く-PST
 「学生たちは自分の本を取って取って行った」

d. Ojuutn-uud nom-nuud-aa **av-aad** **av-aad** jav-laa.
 学生-PL 本-PL-REF 取る-CVB.PFV 取る-CVB.PFV 行く-PST
 「学生たちは自分の本 (複数) を取って取って行った」

以上から、2項動詞文において **-AAD** をもつ副動詞が反復する条件は、主語または直接目的語の少なくとも一方が複数形になると言える。一方、例 (25) のように主節の述語が否定形をとる場合は、主語と目的語が単数でも複数でも自然である。

(25) Bi nom-oo **unš-aad** **unš-aad** duus-aa-guj.
 1SG 本-REF 読む-CVB.PFV 読む-CVB.PFV 終わる-VN.IPFV-NEG
 「私は本を読んで読んで終わらなかった」

3 項動詞の場合:

3項動詞の場合、以下の例 (26) a は違和感があるが、(26) b, c, d は自然である。3項動詞の場合も、主語または間接目的語の少なくとも一方が複数になるという条件は2項動詞 (2項動詞の場合、直接目的語) と同じである。

- (26) a. ? Bagš ojuutan-d nom **ög-ööd** **ög-ööd** jav-laa.
 先生 学生-DAT 本 あげる-CVB.PFV あげる-CVB.PFV 行く-PST
 「先生は学生に本をあげてあげて行った」
- b. Bagš ojuutn-uud-ad nom **ög-ööd** **ög-ööd** jav-laa.
 先生 学生-PL-DAT 本 あげる-CVB.PFV あげる-CVB.PFV 行く-PST
 「先生は学生たちに (一人ひとりに) 本をあげてあげて行った」
- c. Bagš=nar ojuutan-d nom **ög-ööd** **ög-ööd** jav-laa.
 先生=PL 学生-DAT 本 あげる-CVB.PFV あげる-CVB.PFV 行く-PST
 「先生たちは学生に本をあげてあげて行った」
- d. Bagš=nar ojuutn-uud-ad nom **ög-ööd** **ög-ööd** jav-laa.
 先生=PL 学生-PL-DAT 本 あげる-CVB.PFV あげる-CVB.PFV 行く-PST
 「先生たちは学生たちに本をあげてあげて行った」

2.2.4 -sAAr の反復

コーパス調査では -sAAr をもつ副動詞の反復する例が 4 例得られた。以下のように全ての例文において、主語を担う名詞句が現れなかった。4 例の内、例 (27) 以外の 3 例は慣用句的な表現である。

- (27) ...negen ödör als tertee-gees urt cuvaa **naašil-saar** **naašil-saar**
 一 日 遠い 向こう-ABL 長い 列 近づく-CVB.DUR 近づく-CVB.DUR
 xür-č ir-lee.
 着く-CVB.IPFV 来る-PST
 「ある日遠くから長い列が少しずつ近づいて (こっちに) 着いた」

(Mongolian National Corpus)

2 項動詞の場合:

2 項動詞の場合、主語と直接目的語が単数でも複数でも自然であるという判断であった。

- (28) Bi ödör бүр xool ix xemžee-geer **id-seer** **id-seer**
 1SG 日 毎 料理 多い サイズ-INS 食べる-CVB.DUR 食べる-CVB.DUR
 bai-gaad targal-san.
 ある-CVB.PFV 太る-VN.PFV
 「私は毎日いっぱいご飯を食べ続けることで太った」

3 項動詞の場合:

次の例 (29) の主語と間接目的語は単数でも複数でも自然である。

- (29) a. Bagš nad-ad xičeel-ee **zaa-saar** **zaa-saar** tetgever-t
 先生 1SG-DAT 授業-REF 教える-CVB.DUR 教える-CVB.DUR 定年-DAT
 gar-san.
 出る-VN.PFV
 「先生は私に授業を教え続けて定年退職した」
- b. Bagš biden-d xičeel-ee **zaa-saar** **zaa-saar** tetgever-t
 先生 1PL-DAT 授業-REF 教える-CVB.DUR 教える-CVB.DUR 定年-DAT
 gar-san.
 出る-VN.PFV
 「先生は私たちに授業を教え続けて定年退職した」
- c. Bagš=nar nad-ad xičeel-ee **zaa-saar** **zaa-saar** tetgever-t
 先生=PL 1SG-DAT 授業-REF 教える-CVB.DUR 教える-CVB.DUR 定年-DAT
 gar-san.
 出る-VN.PFV
 「先生は私に授業を教え続けて定年退職した」
- d. Bagš=nar biden-d xičeel-ee **zaa-saar** **zaa-saar** tetgever-t
 先生=PL 1PL-DAT 授業-REF 教える-CVB.DUR 教える-CVB.DUR 定年-DAT
 gar-san.
 出る-VN.PFV
 「先生は私に授業を教え続けて定年退職した」

3. まとめ

モンゴル語の副動詞を反復する従属節において、主語と目的語の単複の関係は下表のようになる。

表 副動詞を反復する従属節における主語と目的語の単複の関係

副動詞接尾辞		-ž/-č	-n	-AAd	-sAAr
2 項 動詞	主語 (単)+目的語 (単)	○	○	×(主節が肯定文) ○(主節が否定文)	○
	主語 (単)+目的語 (複)	○	○	○	○
	主語 (複)+目的語 (単)	○	○	○	○
	主語 (複)+目的語 (複)	○	○	○	○
3 項 動詞	主語 (単)+間接目的語 (単)	○	△	×	○
	主語 (単)+間接目的語 (複)	○	△	○	○
	主語 (複)+間接目的語 (単)	○	△	○	○
	主語 (複)+間接目的語 (複)	○	△	○	○

○: 可能、×: 不可能、△: 条件付き

上表から、-*ž/-č*, -*n*, -*sAAr* をもつ副動詞を反復する従属節においては、主語と目的語は単複の制約を受けないが、-*Aad* をもつ副動詞の反復のみ制約を受けることが分かった。つまり、-*AAd* に関しては、2 項動詞と 3 項動詞の主語と目的語 (2 項動詞では直接目的語, 3 項動詞では間接目的語) の少なくとも一方が複数であることが条件であることが判明した。副動詞接尾辞 -*ž/-č*, -*sAAr* は全て継続を表す意味で使用されている。2 項動詞の場合、-*n* をもつ副動詞の反復は通常「繰り返し」を表すが、その前に「絶え間なく、途切れなく、ずっと」といった副詞的な要素が来ることによって「継続」も表すことができる。3 項動詞の場合、主語と間接目的語の単複に関係なく、-*n* をもつ副動詞の反復は許されない。ただし、その動作が「繰り返し」という意味ではなく、禁止、警告といった意志を表す文に限って可能である (表の△はそれに当る)。-*AAd* をもつ副動詞の反復する肯定文の場合は、主語と目的語が両方とも単数形に限って不可能であるが、否定文の場合は、主語と目的語が単数でも複数でも可能である。

略号一覧

-	suffix boundary	接尾辞境界	MDL	modality	モダリティ
=	clitic boundary	接語境界	MOD	modal	非分離
1	1st person	一人称	NEG	negative	否定
2	2nd person	二人称	NMLZR	nominalizer	名詞化
3	3rd person	三人称	NPST	non-past	非過去
ABL	ablative	奪格	PASS	passive	受け身
ACC	accusative	対格	PFV	perfective	完了
CAUS	causative	使役	PL	plural	複数
COND	conditional	条件	POSS	possessive	所有
DUR	durative	継続	PROP	proprietary	～持ちの
CVB	converb	副動詞接尾辞	PRS	present	現在
DAT	dative	与格	PSN	personal name	人名
EMPH	emphasis	強調	PST	past	過去
GEN	genitive	属格	Q	question	疑問
IMP	imperative	命令	REF	reflexive	再帰
INS	instrumental	造格	SG	singular	単数
IPFV	imperfective	不完了	VN	verbal noun	形動詞

参考文献

- 栗林均 (1992) 「モンゴル語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編著) 『言語学大辞典 第 4 巻 世界言語編 (中)』 501-517. 東京: 三省堂.
- 山越康裕 (2012) 『詳しくわかるモンゴル語文法』 東京: 白水社.
- Bjambasan (1970) “Orčin cagijn mongol xelnij üjl ügijn xev, bajdal”, *Xel zoxiolyn sudlal* 8: 289-292.

- Bjambasan (1978) “Üg davtaxyn negen učir”, *Xel zoxiolyn sudlal* 13: 87-95.
- Janhunen, Juha A. (2012) *Mongolian*. London Oriental and African language library 19. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Kullmann, Rita & D. Tserenpil (1996) *Mongolian Grammar*. Hong Kong: Jenco.
- Mishig (1977) *Orčin üjeijn mongol bičgijn xelnij dadlagyn xel züj*. Ulaanbaatar: UDTDTMB xoroony xevelel.
- Pürev-Očir (1987) “Üjl ügijn nöxcöldүүлэн xolbox nöxcöl”, Š. Luvsanvandan (ed.) *Orčin cagijn mongol xelnij üg züjn bajguulalt*, 108-138. Ulaanbaatar: BNMAU ardyn bolovsrolyn jaamny surax bičig, setgүүлйн negdsen rjedakcyn gazar.
- Šjevjernina.Z.V (1974) “Reduplikacii deepričestij v mongol’skom jazyke”, *Issledovanija po vostočnoj filologii*. Moskva: GRVL Nauka
- Mongolian Corpus (web-corpora.net) 最終閲覧日 2021/10/10

Number of Subject and Object in Subordinate Clause with Repeated Converbs in Khalkha Mongolian

Lkhagvajav NAMDAG
(Tokyo University of Foreign Studies)

Keywords: Mongolian, converb, reduplication, subject, object

This paper aims to describe which number (singular or plural) is used for the subject and the object (both the indirect object and the direct object) in subordinate clause where a converb is repeated in Modern Khalkha Mongolian. The data for this paper were obtained from Mongolian National Corpus and Google, and from interviews with a consultant. Although there are some previous studies on the repetition of Mongolian converbs, no detailed description of their meaning and usage has been done so far. Specifically, we have yet to find any research that focuses on the relationship between the subject and object of a subordinate clause in the case of repeated converbs. This paper focuses on the number (singular or plural) of the subject and object in subordinate clauses where converbs are repeated.

(ナムダグ・ハグバジヤブ lkhaagii89@gmail.com)